

## 大和市役所の温室効果ガス排出量集計結果(2024年度分)

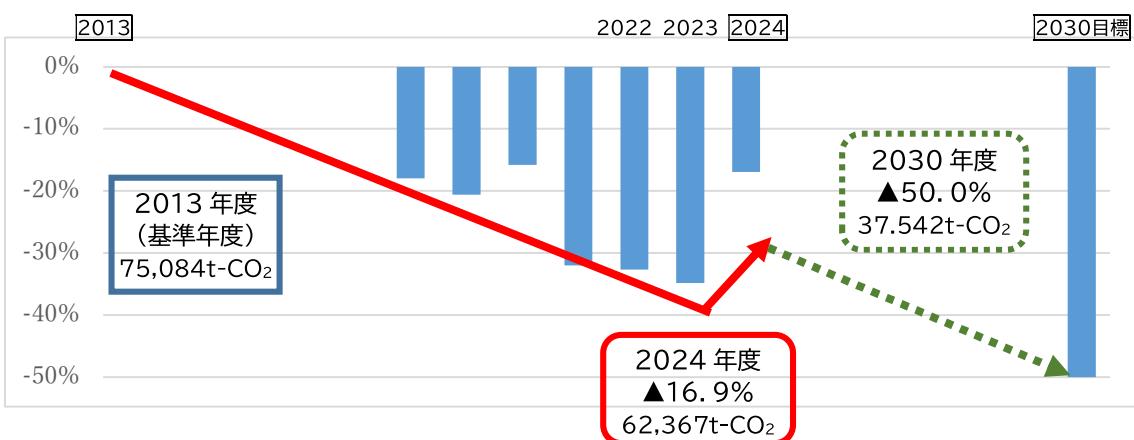
大和市役所の事務事業による2024年度の温室効果ガス排出量を報告します。

### 1. 温室効果ガス排出量と削減率(全体)

○大和市役所の2024年度の温室効果ガス排出量は、62,367t-CO<sub>2</sub>(二酸化炭素トン)でした。

※ここで示す温室効果ガス排出量は、二酸化炭素、窒素酸化物、メタン、フロンなど対象物質の排出量を二酸化炭素の排出量に換算したものです。単位は「t-CO<sub>2</sub>」(「二酸化炭素トン」)です。

○2013年度の75,084t-CO<sub>2</sub>から、16.9%削減されました。



【本市事務事業：温室効果ガス排出量 2013 年度比削減率】

○市民の皆様のご協力をいただいて分別した「容器包装プラスチック」の再資源化を進めてきており、温室効果ガス排出量の削減につながっています。

○2024年度の温室効果ガス排出量の増加は、環境管理センターにおけるプラスチック使用製品や合成繊維の焼却が増えたことによるものです。

### 2. 温室効果ガス排出量(施設別)

施設分類	t-CO <sub>2</sub>	%	主な排出源
② 環境管理センター	29,179	46.8%	プラスチック使用製品と合成繊維の焼却
① 水質管理センター	16,162	25.9%	電力、下水汚泥焼却、下水処理
③ 小中学校 (28 校)	5,527	8.9%	都市ガス、電力
④ 市立病院、地域医療センター	4,260	6.8%	電力、都市ガス
⑤ その他の施設 (庁舎、コミセンなど)	7,238	11.6%	電力

○ごみ処理施設である環境管理センター(①)から排出される温室効果ガスは、容器包装プラスチック(プラスチック製容器包装のマークがついているもの)の資源化が進むに伴い減少してきましたが、プラスチック製品や合成繊維の焼却が増加したため、増加に転じています。

○下水処理施設である水質管理センター(②)では、電力の消費と、下水汚泥焼却により発生す

る一酸化窒素( $N_2O$ )により、市役所全体の四分の一強の温室効果ガスを排出しています。

○28 校の小中学校(③)と、市立病院及び地域医療センター(④)では、電力とガスの使用により温室効果ガスが排出されています。

○その他の市施設(⑤)では、電力使用が温室効果ガス排出量の大半を占めています。

### 本集計につきまして

- ・環境省が開発した「LAPSS(Local Action Plan Supporting System/地方公共団体実行計画策定・管理等支援システム)」を用い、本市の事務事業により消費した各種エネルギー量や、ごみ焼却量、下水処理量などから集計したものです。2024年度が、現時点での最新集計となります。
- ・環境省の算定マニュアルの改定などに従い、集計方法を隨時見直しています。このため今回取りまとめた数値が、今後再計算される場合があります。
- ・温室効果ガスの排出量やパーセンテージは、四捨五入しているため、各要素の合計と合計とが一致しない場合があります。

お問い合わせ 大和市環境総務課地球環境係  
046-260-5493 ems@city.yamato.lg.jp